

むさしデンタルオフィス通信

2008, 6 Vol.10

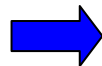
こんにちは、歯科技工士の高木です。先月の連休から一ヶ月が過ぎ、五月病だった方も、そろそろ仕事のペースを取り戻せた頃ではないでしょうか。今月中旬からは、いよいよ梅雨の時期に入ります。雨の日が苦手な自分としては、非常に憂鬱な季節が来てしまいます。梅雨明け後の短い夏を待ちつつ、乗り切りたいと思います。

技工について

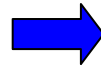
患者さんが歯型を取られてから、被せ物が出来上がるまで、数日期间を頂いています。今回は、この期間にどのようにしてみなさんの被せ物が作られているのか、簡単な製作過程を説明したいと思います。



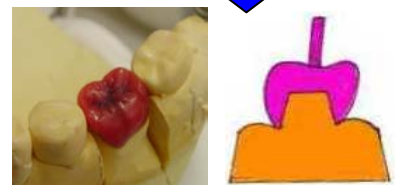
①患者さんの歯型を取ります。



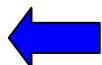
②歯型に石膏を流し入れます。



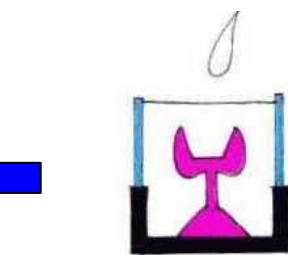
③固まった石膏を作業しやすい状態にして、噛み合せの一を再現する器械に付着します。



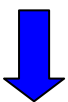
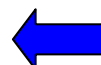
⑥石膏模型の上に、蠟（ろう）で歯の形を作ります。



④この状態で 700 度の窯に入れて、蠟を燃やして蒸発させます。



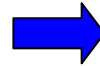
⑤蠟（ろう）で作った歯の周りに石膏を流して蠟を完全に覆い隠します。



⑦蠟（ろう）を蒸発させ空洞になった石膏の中に、溶かした金属を遠心力で流し込みます。



⑧周りの石膏から金属を取り出す。



⑨綺麗に研磨して完成となります。

か

ぶせ物や詰め物を作る工程はとても複雑で緻密な作業です。患者さんの歯型を取った後に、ピンクの印象材が変形し始めるため、すぐに石膏を入れないと形が変形してしまいます。また噛み合わせを再現する器械につけるときの、慎重に行わないと噛み合わせが合わないかぶせ物ができてしまいます。蠟で歯の形を作りますが、この形がそのまま患者さんの歯の形になるので、噛み合わせや歯並びに注意しながら形を決めていきます。金属を流し込む作業も、慎重に行わないと、金属の中に空気を巻き込んでしまい、綺麗な形ができません。

このように、さまざまな過程を経てかぶせ物ができています。患者さんの為に、常に慎重に作業を行っておりますが、変形してしまったり、作ったものが合わないときがあります。合わないものを無理に付けると、再度むし歯になってしまったり、かぶせ物がはずれやすくなってしまったりします。合わないときは、再度作り直しをいたしますので、先生から説明がありましたらご理解の程よろしくお願いいたします。

トピックス

先日、通り町にある「誉寿司」さんに、当医院長がご家族と一緒に食事に行ったそうです。その際なんと、「ムサシデンタルサマ」と文字を焼かれた たまごやきを頂きました！ すごいですね。ご近所にお住まいの方はご存知かもしれませんが、誉寿司さんは、ねたが良くて、とてもアットホームなお店だそうです。なんでも、あなご丼が絶品だそうですよ。みなさんも機会があれば、是非一度、お食事に行ってみて下さいね。



2008.6						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

2008.7						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6月7月の休診日です。赤字は休診日となります

むさしデンタルオフィス
 秋田市保戸野通町 4-8 1F
 TEL : 018-853-8214
 フリーアクセス : 0800-800-8461
<http://www.musashi-dent.jp>